

審査員賞

中学生部門

岡山県浅口市

私立金光学園中学校2年

杉田 愛佳

「言葉の力」を感じるとき

私が好きな言葉は「笑顔」である。人はどんなときでも笑顔になると気持ちがいいし、なんだか明るい気持ちになり前向きになれる気がする。どんなにつらくてしんどくても、笑顔になれば立ち直れる。

私と一緒に暮らしているおばあちゃんが何年か前に「うつ病」になった。「うつ病」は簡単に言えば強い憂うつ感が長く続き、気持ちが落ちこんだ状態が回復しないという心の病気だ。私のおばあちゃんも長い間、何もする気がなくなったり、気持ちがずっと沈んだ状態で寝たきりであった。しかも最終的には死について考えるようになり、死にたいとまで思うようになってしまった。私はそんなどん底に落とされているおばあちゃんを、「笑顔」という言葉の力でまたもとにもどしたいと思った。

そのときのおばあちゃんがいきなり笑顔になるのは絶対無理だったけれど、私は毎日のように、「おばあちゃん的笑容好きだよ」とか、「笑顔になればきつとまた元気になれるよ」とか、とにかく「笑顔」という言葉でおばあちゃんをほめました。

おばあちゃんが回復するのには一年以上もかかったけど、おばあちゃんが少しずつ笑顔になっていった。そのときはほんとにうれしかった。喜びと同時に言葉のパワーを感じた。

最悪な状態からおばあちゃんを救ったのはきつとこの「笑顔」という言葉の力だと思う。

私はそのとき、言葉ってすごいなって感じた。